

「武庫川の健康診断図(案)」の内容に関する検討事項(06-01-18 会議用、村岡)

1. 保存、保全すべき事項等

- (1) 岩場を流れる溪流美(E域:中流の渓谷域)
- (2) オヤニラミの生息地(D域:羽束川での生息域)
- (3) 夏期冷温性の種の生息(C域:後川の冷水域)
- (4) 緩流河川における希少種の生息(A域:広野付近より上流)
- (5) 県下で唯一確認の植物生息(B域:岩倉・波田付近)

2. 課題とされる問題に関する検討事項

- (1) 下流域の流況について(甲武橋から河口まで)
 - ・ 汽水域の生態環境が描かれていない。どのような状態と認識すればよいか。
 - ・ 潮止め堰の改良要望に関連し、魚類等の生息状況と改良した場合の将来の環境改善の予想は? これに限らず、下流部にある多くの堰の改変に伴う現在の生物環境の状態と今後の状況について専門的な意見やまとめがほしい。
- (2) 水量の減少について(下流域、上流の後川・波賀野川)
 - ・ 灌漑期の取水による減水がある。これによってどのような具体的な影響があるか。水温の上昇、水深の減少、流速の低下等のどの現象がじゅうようか。また最低限、その地点で望ましい水量はどの程度か。
 - ・ 灌漑期の取水で、一方では水田地帯での生態系が保持されているかも知れない。そうであればどのようなことか。
 - ・ 取水による減水が生物にとって好ましくないなら、取水の必要性、代替水源の可能性、取水の合理的管理方法など、考えられないか。
- (3) 堰、ダム湖による生物生息の連続性の遮断について(真南条川、天神川、有馬川水系、中流部の支川など、堰や落差工のある川は多い。)
 - ・ 青野ダムの魚道施設はどのような効果を上げているか。また、魚道施設のないダム湖では、結局どのような生態系が定着しているか、その良し悪しは?
 - ・ 河道の堰や落差工は小規模であるが、これは治水上容認せざる施設である場合が多い。また結果的には急流域ではその数も多い。そうであれば、回遊性や遡上したり往来したりする生物や魚類等にとって堰等の改修でどのような工法が望まれるか。

(4) 堆砂と水深の確保について

- ・ どのような箇所が堆砂が著しいのか。(この課題は流砂による縦断・横断特性とその実績について、別の調査資料が必要である。)
- ・ 堆砂や水深減少がある場合、生物生息への影響は緩流域や植生の増進などにおいては良好な環境を造ることになるが、そのような場所を特定して維持管理を重視したらどうか。

(5) 三面張りについて(内神川、天神川、他に同類の地点多数)

- ・ 三面張り河道は出水時の側岸浸食や崩壊、また河床洗掘の防止のため、治水上やむをえない場合が多い。従って自然工法への転換の可能性を検討し、そのことによって生態系の回復をねらえる地点があるように思われるが、その点はどの程度まで検討されているか。
- ・ 三面張りによる水温上昇を回避するため、河床等の構造を改修することはできないか。

(6) 水質の汚濁について(上流部本川沿いで、相野川から長尾川の流入する区間の流域)

- ・ 市街化の進行によると思われる水質悪化が進んでいる河川が多く見られるが、具体的にどのような影響があるのか。
- ・ CODの上昇があると見られるが、環境基準のBOD等で見ると、基準は満足している。このことは生物への影響と環境基準の考え方にどのような相違があると見られるのか。
- ・ 水質の悪化(極端な場合は別として)と水温の上昇や水深の浅化等の物理的な環境変化とにおいて、生物生息への影響をどのように評価仕分けることができるのか。

(7) 外来種の問題

- ・ 外来種の問題は我が国全土での課題でもあるが、武庫川においてこの問題を正しく認識させるような資料(冊子、書物等)はあるのか。

(8) 全般的な課題、その他

- ・ 河川における一次生産(藻類)の状況の記述がない。どのような認識に立てばよいか。
- ・ ダム湖における生態環境の記述がないが、どの程度判っているのか。

3 . その他

以 上